



YASKAWA

安川電機 (6506)

2008年9月中間決算説明会：要約版 (2008年10月17日)

取締役社長 利島 康司

本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

実際の業績等に影響を与える重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

事業セグメント別売上高構成比

当社製品活用事例

情報

【主要製品】
コンピュータ周辺機器、レーザー応用システム
情報処理ソフト・サービス

システムエンジニアリング: (S)

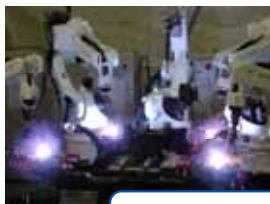
【主要製品】
鉄鋼プラント用電機システム
上下水道用電気計装システム
新システム機器等



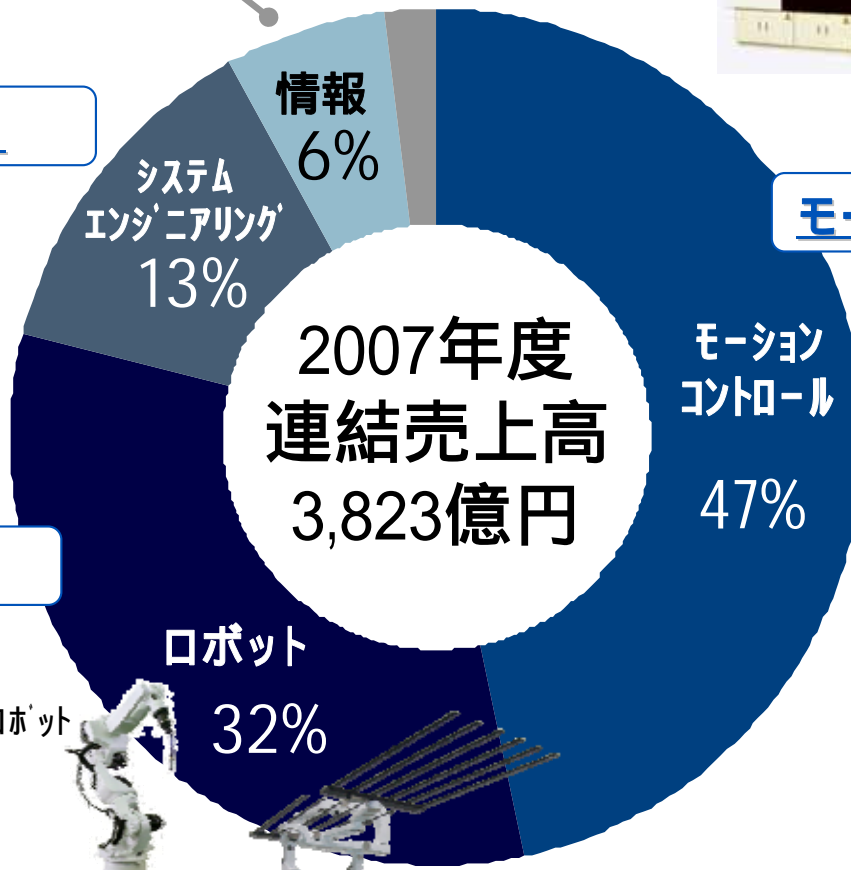
ロボット: (R)

【主要製品】
・産業用ロボット:
アークスポット溶接・塗装ロボット、FPD搬送ロボット
新世代ロボット
・半導体製造装置用ロボット:
半導体製造装置用クリーン・真空ロボット等

アーク溶接ロボット
による自動車
部品溶接



新世代ロボット
によるロボット組立



【電子部品】
チップマウント



【工作機械】
タッピングマシン

モーションコントロール: (M)

【主要製品】
ACサーボモータ、コントローラ、リニアサーボ、インバータ等



当社製品活用事例

仕向先別売上高構成比

アジア

【主要子会社】

- ・安川電機(上海)有限公司(中国)
- ・シンガポール安川電機(シンガポール)
- ・韓国安川電機(韓国)
- ・台湾安川開発科技股份有限公司(台湾)
- ・首鋼モトマン有限公司(中国)
- ・モトマンマザーソロボティクス(インド)

欧州

【主要子会社】

- ・欧州安川電機(ドイツ)
- ・モトマンロボティクスヨーロッパ(スウェーデン)
- ・モトマンロボテック(ドイツ)

米州

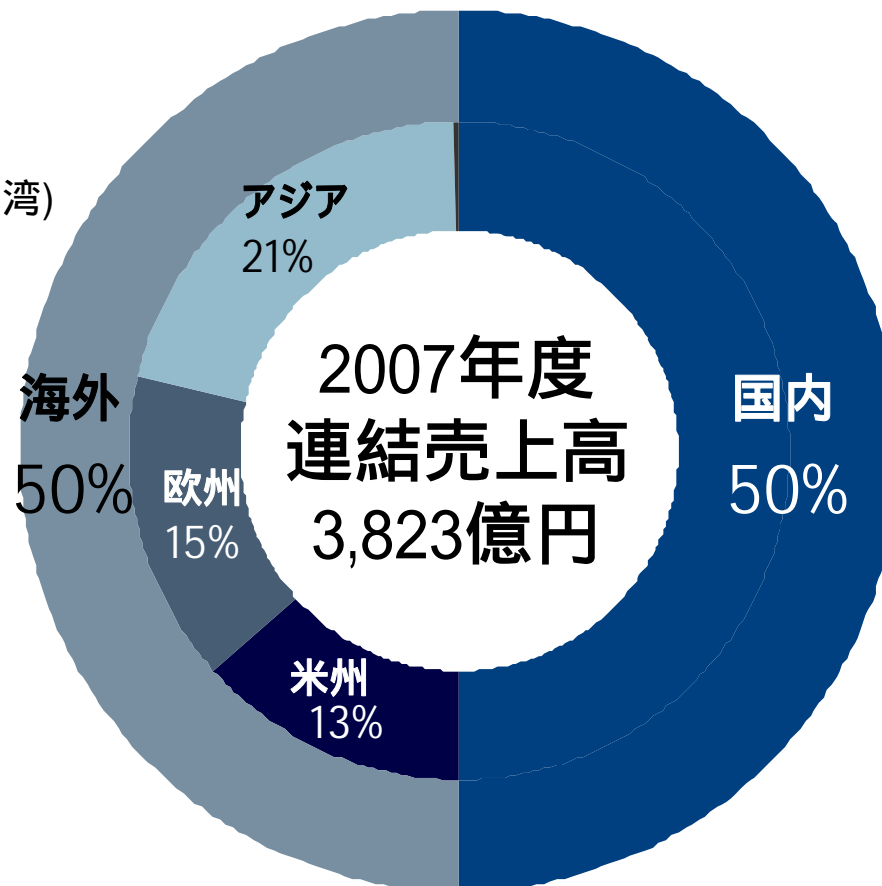
【主要子会社】

- ・米国安川電機(米国)
- ・モトマン(米国)

日本

【主要子会社】

- ・ワイ・イー・データ
- ・安川情報システム
- ・安川エンジニアリング
- ・安川コントロール
- ・安川モートル



2008年9月中間決算のポイント

円高の影響を受けながらも過去最高売上高を達成し
ほぼ前年並みの利益を確保、いずれも当初計画を上回る

売上高	1,894億円	前年同期比 +3.1%	計画比 +2.4%
営業利益	158億円	前年同期比 3.9%	計画比 +2.1%
経常利益	166億円	前年同期比 1.2%	計画比 +7.7%
当期純利益	95億円	前年同期比 1.6%	計画比 +11.9%

(売上高は中間期として過去最高)

(M)インバータ:省エネ需要増加により、アジア、空調向けが堅調に推移

ACサーボ:液晶向けが伸長し、高水準の売上を持続

(R)自動車:欧州が牽引し増収、液晶:過去最高の受注(売上への本格
寄与は下期から)、半導体:設備投資抑制が長期化

(S)鉄鋼大口案件の売上が谷間となるがコストダウンで利益率を維持

(情報)コストダウン、経費削減により増益を達成

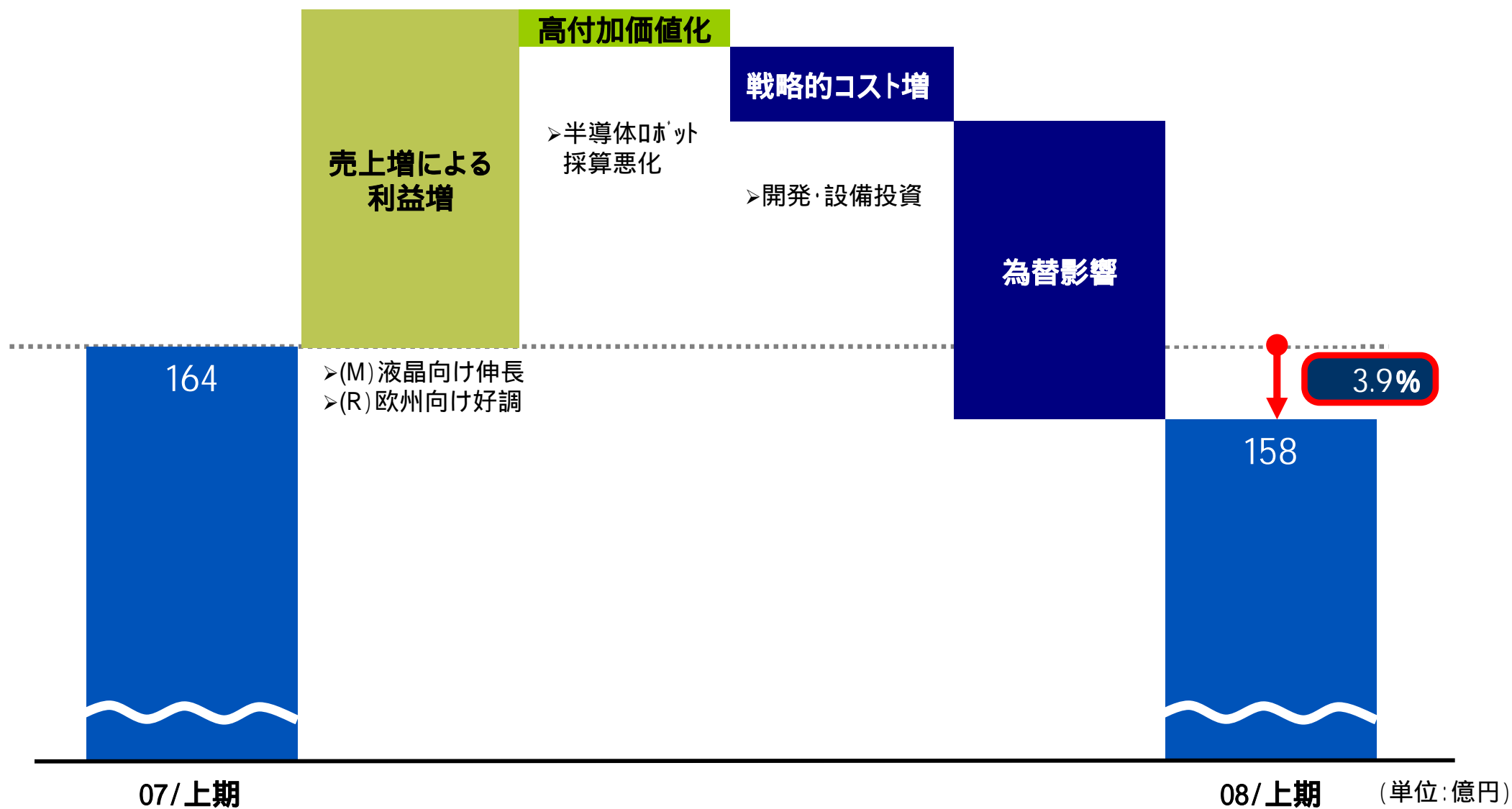
2008年9月中間決算連結セグメント別業績

(M)(R)が増収を牽引

(単位: 億円、%)

	08上期		07上期		前年同期比	
		利益率		利益率	増減額	増減率
売上高	1,894		1,837		+57	+3.1%
(M)	909		864		+45	+5.3%
(R)	638		602		+36	+6.0%
(S)	197		223		26	11.5%
(情報)	111		112		1	0.9%
営業利益	158	8.4%	164	9.0%	6	3.9%
(M)	102	11.3%	104	12.1%	2	1.7%
(R)	41	6.4%	40	6.7%	+1	+1.5%
(S)	6	3.5%	7	3.6%	1	13.2%
(情報)	3	3.5%	1	1.7%	+2	+110.6%
経常利益	166	8.8%	169	9.2%	2	1.2%
当期純利益	95	5.0%	96	5.3%	2	1.6%

営業利益増減要因分析(07年度上期 08年度上期)



2008年度連結業績見通しのポイント

- ・液晶、鉄鋼受注の確実な売り上げ
- ・新製品を武器とした拡販
- ・徹底したコスト管理



ほぼ前期並みの
業績達成を目指す

(M) ACサーボ: 新製品の本格的海外展開によりシェアを拡大

インバータ: 新製品の品揃え強化により省エネ需要を取り込み

(R) 自動車: 次期ロボットにより小型車市場などの需要を的確に捕捉

液晶: 大型受注案件を効率的に生産し、売上・利益を確保

半導体: 体制スリム化により市場の調整局面に対応

(S) 鉄鋼: 受注案件の確実な売上により採算性を向上

高圧ドライブ: 省エネ技術の応用展開により売上を拡大

2008年度連結セグメント別業績見通し

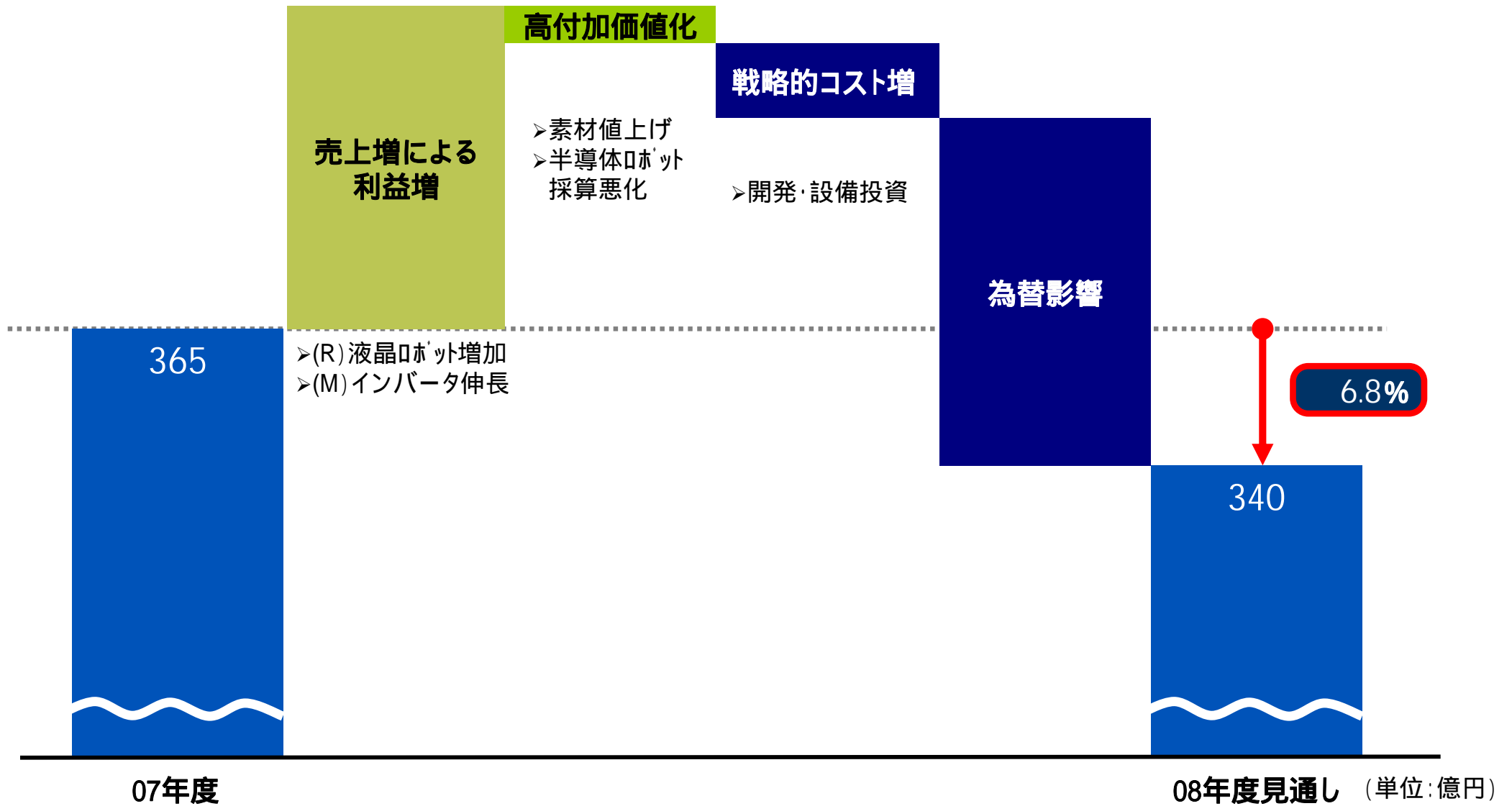
環境の変化を踏まえ、通期見通しを修正

(単位:億円、%)

	08年度			期初外発比		
		利益率	期初	利益率	増減額	増減率
売上高	3,850		4,000		150	3.8%
(M)	1,739		1,870		131	7.0%
(R)	1,300		1,340		40	3.0%
(S)	500		475		+25	+5.3%
(情報)	240		240		+0	+0.0%
営業利益	340	8.8%	380	9.5%	40	10.5%
(M)	183	10.6%	214	11.4%	30	14.1%
(R)	93	7.2%	107	8.0%	14	13.1%
(S)	45	9.1%	31	6.5%	+15	+46.8%
(情報)	12	5.0%	10	4.2%	+2	+20.0%
経常利益	350	9.1%	380	9.5%	30	7.9%
当期純利益	200	5.2%	210	5.3%	10	4.8%

為替想定: 米ドル 103.1円 100.0円
ユーロ 151.3円 150.0円

営業利益増減要因分析(07年度 08年度修正見通し)



B / S 構造の効率化 (連結)

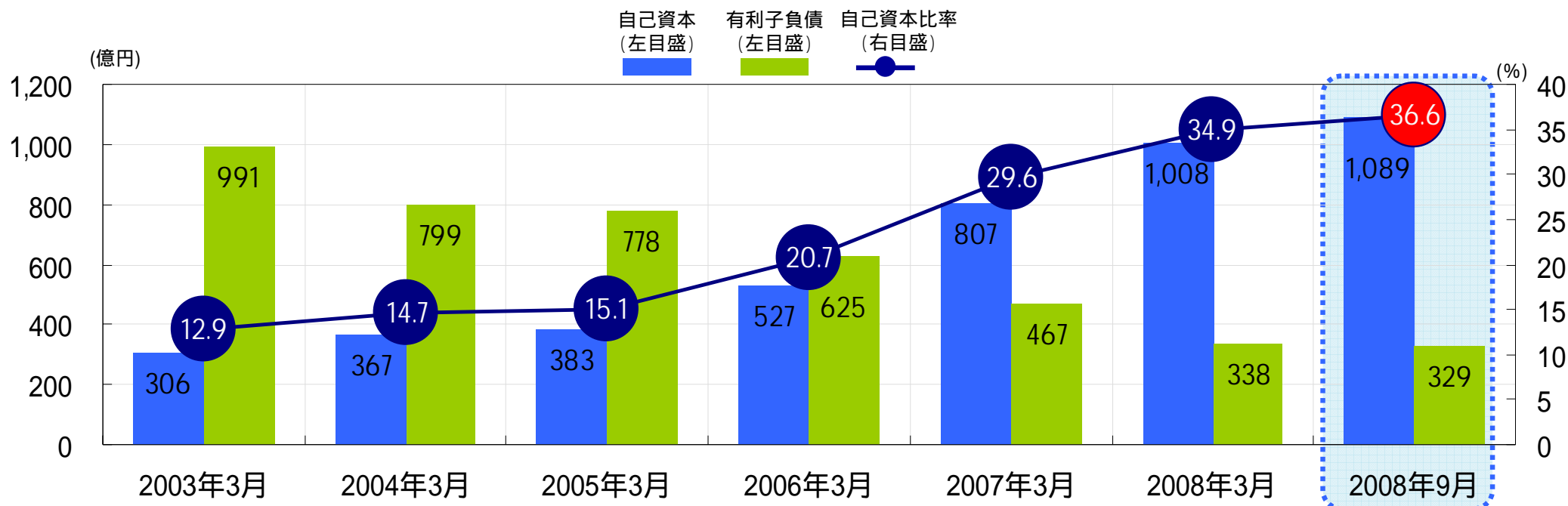
2008年3月期

- 自己資本比率 34.9%
- 自己資本 1,008億円
- 有利子負債 338億円
- D/Eレシオ 0.34
- 棚卸資産 579億円
(回転月数) (1.8ヵ月)

2008年9月中間

- 自己資本比率 36.6%
- 自己資本 1,089億円
- 有利子負債 329億円
- D/Eレシオ 0.30
- 棚卸資産 657億円
(回転月数) (2.0ヵ月)

棚卸資産回転月数の計算には棚卸資産の期首期末平均値を使用



リスク要因

為替相場の変動

急激な円高の進展など、為替相場の動向によっては、当社業績に悪影響を及ぼす可能性がある。

(ご参考)	2007年度上期為替実績	1ドル = 120.0円	1ユーロ = 161.8円
	2007年度下期為替実績	1ドル = 110.8円	1ユーロ = 160.9円
	2008年度上期為替実績	1ドル = 105.6円	1ユーロ = 163.1円
	2008年度下期為替想定	1ドル = 100.0円	1ユーロ = 140.0円

市場環境

世界経済の減速リスクがさらに高まっており、受注の減少等の悪影響に注意を要する。

原材料・部品価格のさらなる上昇

想定範囲内にとどめるよう最善の努力をしているが、引き続き値上げ圧力を受けており、利益圧迫要因が拡大する恐れがある。